

担い手

連携

多世代交流

福祉

神奈川県内の地域情報を紹介する

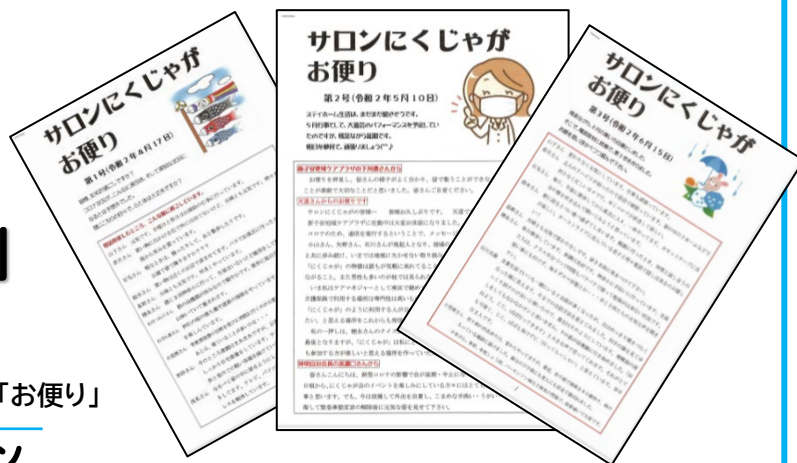
地域のわ通信

発行 ▶ 区政推進課 地域力推進担当 411-7026

コロナ状況が長引く中、地域サロンが利用者と離れていてもつながりあう「お便り」を発行中！

「サロンにくじゃが」

▶ サロンの利用者が楽しみに待つ「お便り」



■ コロナ対応の地域活動はオンラインだけじゃない

新型コロナウイルス（以下、コロナに略）の感染拡大が広がる中、地域活動にも大きな影響が出ている。特に、飲食をともにする地域活動は自粛が続き、運営者も利用者も今後の活動について不安を抱いている。そんな中、神明町にある「サロンにくじゃが（以下、サロンに略）」では、これまでの利用者にお便りを出し、その絆をつなぎとめる工夫をしている。

サロンは1月を最後に開催できなくなったと代表の小山さんは言う。運営メンバーは今後の活動について話し合う中、時間が経つごとに「サロンは今まで通りできなくなるのではないかと」気持ちが沈んだ。「みんなどうしているかしら？利用者さんも同じように考えているかもしれない。これまでのつながりをコロナで途絶えさせたくない」と、形に残るもので利用者へ「あなたのことを気にしている人が近くにいる」ことを知ってもらいたいと思いついたのが「サロンにくじゃがお便り」だった。常連の方々を中心に今までサロンでお世話になった方々に電話で取材し、サロン中止後の4月、5月、6月と発行し、現在、第3号まで続いている。

■ 電話取材でわかった「みんな、誰かと話したかった！」ということ

第1号(4月発行)では、利用者のコロナ禍の中の様子を届けている。その人らしさを感じられるようにまとめてあり、読み手の笑顔が浮かぶ。

第2号(5月発行)では、サロンに関わったケアプラザのコーディネーターや自治会会長からの応援メッセージ、利用者からの投稿、脳トレのクイズを掲載している。

第3号(6月発行)は、利用者の日々の様子に戻り、1号2号を読んだ利用者の伝えたい思いが膨らみ、今までの倍以上の内容量になった。さらに利用者の投稿も増え、この「お便り」が運営側と利用者をつなぐツールになってきている。

「お電話すると喜ばれ話が長くなることがありました。誰かと話したかったのだと、強く感じました」と、電話取材を引き受けた運営メンバーの矢野さんと石川さん。外出を自粛し、Stay homeを意識する生活の中、家族以外に話す相手が少なく、特に一人暮らしの高齢者にとっては気持ちが滅入る日々が続いていた時に、聞きなれた声の電話はととてもホットしたのではないかと想像する。

■ 「サロンにくじゃが」はどんなところ？



▶男性の利用者が多いのもサロンの特徴(今年1月の様子)

通常のサロンは、毎月1回第3か第4のいずれかの日曜日、11時から14時まで開催している。会場は神明町にあるサロンの代表である小山さんの自宅の1階。もともとは小山さんの身内が使っていたスペースだが、老人施設に入ることになり空き室になっていたところを活用した。

サロンを開くきっかけは、地域の子ども会活動を共にした4人の仲間のひとりが認知症になったこと。小山さんは、年齢を重ねることによる不安を感じ、地域で暮らす人たちで助け合える関係ができればという思いから、地域の居場所づくりを意識するようになった。「明日は我が身」と感じた他の2人と共に、ランチを楽しみながら地域の人が交流する居場所を開いた。開催にあたっては、地域の老人会等に相談し、新子安地域ケアプラザや区社会福祉協議会、自治会の協力を得て、2014年11月からスタートし今年で6年目になる

■ サロン活動は、顔を見て安心しておしゃべりできる場の提供だと気づいた！！

With コロナの活動について「食事とともにするサロン開催はもう少し先になりそうです。お茶とお菓子だけで短時間、少人数で回数を分けて開催することや、おりがみなどの好きなことで集まる会にするなど、まずはいろいろやってみて、利用者の声を聞き考えながら進んでいきたいと思っています」と小山さん。「改めてサロンの意義を考えてみたら、飲食にこだわらず顔を見て安心しておしゃべりできる場の提供であり、それを利用者も求めていることに気づきました」と続けた。

この状況だと、7月もお便りになる可能性が高まる中、オンラインお茶会ならぬ「紙上お茶会」で、それぞれが好きな飲み物を持った写真を撮り、コメントを紹介する便りにしてはとアイデアが広がる。サロンが開催されるまでの間は、「お便り」が利用者と運営者の絆をつなぎとめ、その関係をより良きものにする時間になりそうだ。



▶フェルト細工のいちごを口に運ぶお茶目なサロンの中心運営メンバーの四人。左から代表の小山さん、石川さん、若月さん、矢野さん



▶食事の前に催し物があり、1月「津軽三味線」の演奏者を囲んで



★「サロンにくじゃが」の名前の由来
子ども会活動を通して知り合った地域の仲間と初めて食事会をして作った料理がにくじゃがだったことと、その仲間がサロン活動の運営メンバーにつながったことからこの名前にした。